

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	地下水水質管理事業	会計	一般会計	事業No.	327	施策順No.	53-001
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-5-11-4		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	53 環境汚染の防止			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市内全世帯							A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		世帯数	37395	37610	37682	37579	37500		
	意図	市域の地下水の汚染状況を把握し施策立案の資料とする 市民に安心して井戸水を使用してもらう							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度	
	補助件数(水道の接続が困難で、井戸水のみ使用している家庭に対する補助)	22	48	13	30	22	30	B	
	市で斡旋する水質検査を受検した世帯の数(検体数)	297	325	257	300	244	300		
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	水道接続の困難世帯に対する補助実績件数は目標を達成していないが、この補助事業は水道管敷設のインフラ整備計画に対する見返り事業として政策上必要と思われる。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	地下水水質管理事業 ・地下水(井戸水)の汚染状況の把握 ・定期モニタリング調査を実施 ・井戸水を使用している家庭を対象に水質検査の斡旋 ・上水道、簡易水道の給水が困難な井戸水利用者への検査費用の助成		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	地下水水質管理事業 1 地下水定期モニタリング調査の実施 (モニタリングか所…座光寺、松尾久井、伊賀良、川路、龍江、鼎、上郷) 2 飲用井戸水検査の斡旋 3 上水道、簡易水道の供給困難な井戸水利用者への検査費用の助成	1 調査個所数 2 検査件数 3 補助金交付件数	1 7カ所 2 237件 3 24件
23年度実施計画	地下水水質管理事業 1 地下水定期モニタリング調査の実施 (モニタリングか所…座光寺、松尾久井、伊賀良、川路、龍江、鼎、上郷) 2 飲用井戸水検査の斡旋 3 上水道、簡易水道の供給困難な井戸水利用者への検査費用の助成	1 調査個所数 2 検査件数 3 補助金交付件数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)			特定財源内訳、補足事項
		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	
	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	430	221	421	
	計(A)	430	221	421	
	正規職員所要時間				
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		0		
	トータルコスト A+B		221		

4 事業に対する市民や議会の意見

井戸水の利用者からは、自分が利用している井戸水は安全か知りたいという声がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	環境基準が守られている	施策の成果指標又はムトス指標	飯田市が定める環境目標の達成率(水質BOD)(%)
				100パーセント達成
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	市民の井戸水に対する不安感を払拭した。		
	後期に向けた課題	補助事業の趣旨が理解されていないため、行政とのトラブルを抱えるケースが発生している。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	水道の普及困難な家庭での地下水利用検査費用の補助		
	後期に向けた課題	水道の普及されている世帯では、補助金が該当しない旨の徹底		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	検査費用の値下げはできないが、ここ何年にもわたる検査費用は据え置かれている。		
	後期に向けた課題	検査費用の値下げはできないが、据え置くことが大切と考える。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市の関与は最小限に抑えられている。また、これ以上の多様な関与は、市の機構の大きさと複雑さ故に困難と思われる。		
	後期に向けた課題	住民と意識として締め切りを守ろうとする意識が低い。締め切り後一ヶ月してからも、検査徳申し込みが持ち込まれる。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	主体は市環境課である。自治振興センターと検査機関との連携が肝要であるが、市環境課がコアになっている。		
	後期に向けた課題	自治振興センターの足並みをそろえることに腐心している。		
全体を通じて	4年間の振り返り	市民と自治振興センターの意識統一がとれないことが問題である。		
	後期に向けた課題	多様な主体の統一的な動きが課題になる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------